

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月

信州大学

目 次

資料－教育 1－1	成績評価分布を用いた Community-based FD の概要	1
資料－教育 1－2	「授業改善アンケート」に関するガイドライン	6
資料－教育 1－4	共通教育科目におけるポートフォリオの実施状況	7
資料－教育 1－5	平成 21 年度「ジョギングアンドウォーク」実施者の統計データ	8
資料－教育 2－3①	「信州大学 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」	8
資料－教育 2－3②	カリキュラムマップ「学位授与の方針」マップ	9
資料－教育 2－6	教員採用試験合格者数（教育学部を除く）	10
資料－教育 2－8	高度な専門的知識と能力，実践的技術力，研究能力を修得させる特徴的な教育課程と，その履修状況等（平成 19 年度以降）	10
資料－教育 2－11	「共通教育グッドプラクティス」の実施状況，	11
資料－教育 3－5	高度な専門的知識と能力，実践的技術力，研究能力を修得させる特徴的な教育課程と，その履修状況等（平成 19 年度以降）	13
資料－教育 3－8	平成 21 年度における，本学大学院生の主な受賞状況一覧	13
資料－教育 3－9	信大教育学部・教育学研究科出身教員（5 年目まで）が身につけている具体的な力	14
資料－教育 6－2	平成 19 及び 20 年度信州大学全学 e-Learning（e-ALPS 活用教育）における受講生アンケート結果 比較報告	14
資料－教育 10－3	松本合同図書館 開館時間の拡大状況	15
資料－教育 11－2	信州大学 FD ポリシー	15
資料－教育 19－3	平成 19 年度から平成 21 年度までの休学・退学者の推移	15
資料－教育 22－1	本学独自の授業料免除制度	16
資料－研究 6－1	「信州産学官連携機構人財マップ（SIS Assets Map）」アクセス件数	16
資料－研究 10－1	信州産学官連携機構 概念図	16
資料－その他 1－3①	リポジトリ登録数の推移	16
資料－その他 1－3②	リポジトリ閲覧件数の推移	17
資料－その他 1－3③	松本合同図書館 入館者の推移	17
資料－その他 6－1①	国際化推進プラン	18
資料－その他 6－1②	国際化推進プラン実施体制	19
資料－その他 7－1	短期留学生（交換留学生）の受入・派遣数及び大学間協定校数の推移	19
資料－その他 8－1	教員の海外派遣及び外国人研究員の受入状況	19

○資料－教育１－１

「成績評価分布を用いた Community-based FD の概要」

○Web サイトへの掲載による公表状況

信州大学 SHINSU UNIVERSITY 全学教育機構

Google カスタム検索 文字サイズ 小 中 大 検索

全学教育機構HOME 全学教育機構とは 共通教育について 科目案内 教員紹介 スペシャルコンテンツ

ホーム > お知らせ > お知らせ詳細

お知らせ

お知らせ

このページを印刷する

2009.04.28

共通教育科目成績評価分布検証結果について

信州大学では、平成20年度より厳密な成績評価を目指して、成績評価区分を4段階から5段階へ移行するとともに、合理的かつ厳格な成績評価基準を保つため、成績評価分布の学内公開をすべての共通教育科目についてはじめました。

このたび、全学教育機構では、その目的をより実質的・効果的に達成するため、平成20年度前期に開講された共通教育科目の成績評価分布を用い、教育部門を単位とするCommunity-based FDを実施いたしました。その結果(概要)を報告いたします。

[成績評価分布を用いたCommunity-based FDの概要\(報告\) \(PDFファイル\)](#)

(出典：信州大学全学教育機構 Web サイト)

「成績評価分布を用いた Community-based FD の概要（報告）」の抜粋

成績評価分布を用いたCommunity-based FDの概要（報告）

2009年2月

全学教育機構長 矢部正之

1. はじめに

本年度（2008年度）より厳密な成績評価を目指して、成績評価区分を4段階から5段階へ移行するとともに、合理的かつ厳格な成績評価基準を保つため、成績評価分布の学内公開をすべての共通教育科目についてはじめました。これらは、次に示す本学の中期計画・年度計画にもとづいて実施されたものです。

○中期計画：I-1-(01)-A-1

- 1) 成績評価基準を授業目標の達成度に統一した上で、単位取得率について合理的な基準を設け、全ての科目区分においてその基準値を維持する。

○平成20年度計画：

- 共通教育授業において、授業ごとの成績評価分布を教員に公開することによって単位取得率の合理的水準の維持を図り、成績評価の公平性を確保する。

全学教育機構では、これらの計画を、より実質的・効果的に達成するため、本年度前期に開講された共通教育科目の成績評価分布を用い、教育部門を単位とするCommunity-based FDを実施いたしました。以下、その結果（概要）を報告いたします。

2. Community-based FDの方法

- ①教員は、担当科目の成績評価分布表を事前に作成。

※【キャンパス情報システム】⇒【履修・成績】⇒【成績評価分布検索】を利用し、自動集計する。

- ②部門長は、部門所属教員の成績評価分布表を回収し、部門の人数+1部（機構長提出用）をコピーする。

- ③部門長は、部門所属教員に成績評価分布表（部門全員分）を配布し、各教員は事前に目を通して置く。

- ④部門ごとに、成績評価分布の検証をCommunity-based FDとして実施する。

【実施例】

- 1) 各教員は、担当科目の成績評価分布についてコメントする。

補足説明：成績評価の分布に大きな偏りがある場合、その理由を述べてもらう、等。

- 2) 成績評価の厳密化・厳格化・公平化へ向けて必要なことは何かについて議論する。

補足説明：例えば、昨年度の成績評価分布との比較（例：今年度の秀+優と昨年度の優の比率）を試みる。

- 3) 部門ごとの成績評価基準について検討し、それを維持するための方策について議論する。

補足説明：基準について数値を示す必要はないが、部門としての成績評価ポリシーを示せるようにつとめる。

- ⑤各部門長は、Community-based FDの結果を機構長に報告する。

- ⑥機構長は、Community-based FDの結果を総括し、機構ホームページ上において公表する。

(出典：信州大学全学教育機構「成績評価分布を用いた Community-based FD の概要」)

「成績評価分布を用いた Community-based FD の概要（報告）」の抜粋のうち、各教育部門の検証結果の例

3. Community-based FDの結果

(1) 環境マインド教育部門

環境マインド教育部門の成績評価の検証とポリシー

1. 成績評価の分布

評価分布には偏りは見られず、概ね妥当の評価分布である。

「ライフサイクルアセスメント入門」は、信州大学において新規な授業内容であるので、今後の受講生増加に向けて検討する。

2. 成績評価の厳密化・厳格化・公平性に向けて

レポートで成績評価を行う場合、レポート提出期限を厳守し、遅延提出の場合には成績に反映させる。

3. 部門ごとの成績評価基準（部門としての成績評価ポリシー）

環境課題そのものは多岐の研究分野に亘るため、環境授業科目では統一的な授業内容および方法に偏ることなく、個々の専門分野の担当教員の裁量の下、成績評価を実施していただく。

ただし、全学のディプロマポリシーに基づき、環境授業を履修することで「学生が何を学び取ることができたか」の観点で成績評価をお願いする。

(7) 言語教育部門

成績評価分布についての検証

1. 概観

言語教育部門（英語と初修外国語）では、現在、成績評価の公平性という観点から、秀を含んだ優の比率を設けている。履修案内にも明記してあるように以下のようなものである。

英語：

上級クラスの合格者の4割程度、中級クラスの3割程度が、それぞれ秀もしくは優とする。従って、全体的には3割から4割程度を秀もしくは優とする。（なお、「総合英語」については、統一テストを行い、絶対評価の側面がある。）

初修外国語：

合格者の4割程度が秀もしくは優であることを標準とする。

（ただし、これらは標準であり、クラスの様態や受講生の出来具合などにより、成績評価の分布における教員の裁量は認められている。なお、日本語・日本事情に関しては、とくに標準的な割合は設けていない。）

【外国語全体の成績評価分布】

2008年度前期の外国語科目242題目全体の平均の成績評価分布は以下のようなものであった。（1年次生と2年次生の合算）

秀→11. 1%

優→32. 3%

良→37. 3%

可→17. 5%

不可→1. 9%

秀と優を合わせると43. 4%であり、4割を超えてはいるが、ほぼ部門での基準に沿ったものであると言える。

【英語全体の成績評価分布】

英語だけを見ると、196題目全体の平均の成績評価分布は以下の通りである。（1年次生と2年次生の合算）

秀→10. 2%

優→31. 8%

良→38. 5%

可→17. 8%

不可→1. 8%

秀と優を合わせると、42. 0%であり、これも4割を超えているが、ほぼ基準に沿ったものであると言える。

【初修外国語の成績分布】

初修外国語別では、以下のような成績評価分布である。（1年次生と2年次生合算）

	秀	優	良	可	不可
中国語	15.1	32.2	26.8	18	7.8
ドイツ語	18.4	36.5	31.1	12.5	1.5
フランス語	5.9	36.5	37.9	18.7	1
ロシア語	0	43.4	33.3	23.3	0
ハンガール	29.8	24.6	14	31.6	0
スペイン語	29.5	23.9	35.2	10.2	1.1
平均	16.5	32.8	29.7	19.1	1.9

（単位%）

英語と比べると秀と優を合わせた割合がおしなべて少し高いが、初修外国語の性格や求める基準、動機付けなどが英語と異なる部分もあり、おおむね適切な分布になっていると思われる。

【英語のプログラム別の分布】

	秀	優	良	可	不可
総合英語	4.7	28	39.7	24.8	2.8
TOEIC英語	9	27.7	38.1	24.3	0.9
アカデミック・イングリッシュ	8.9	28.8	41.7	18.9	1.6
英語会話	6.8	37.8	47.8	7.6	0
平均	7.4	30.6	41.8	18.9	1.3

(単位%)

2年次生

	秀	優	良	可	不可
英語演習「総合英語」	16.7	37.6	32.1	11.3	2.3
英語演習「アカデミック」	9.6	32.5	36.7	19.1	2.1
英語演習「TOEIC」	18.8	34.9	36.3	8.6	1.3
英語演習「プレゼン」	7.6	31.2	38.2	22.3	0.6
平均	13.2	34.1	35.8	15.3	1.6

(単位%)

1年次生の秀と優を合わせた割合は38.0%，2年次生の秀と優を合わせた割合は47.3であり，2年次生の方がその割合は高いと言える。

2. 考察とまとめ

2. 1. 英語

概ね，設定している基準に合った成績評価が行われていると言える。設定された基準に沿うということは，相対評価を原則として用いていることになるが，クラスの特長やその年度の受講生の動機づけ，教育上の配慮などから，教員ごとに見ても，基準からその割合が上下しているケースがある。基準よりもやや秀や優の割合が高いケースが見受けられるが，逆に，たとえば同じ中級クラスでも場合により，実質は初級レベルに相当するようなクラスにおいては，平均より秀を含めた優の割合が下がることがある。その場合は，秀に相当する受講者がおらず，可の割合が高くなることもある。

現在の割合は「目安」と考え，そのクラスの現状により，絶対評価的な要素を必要に応じて加味することは，適切な評価方法だと考えられ，現在はそれが行われていると言える。すなわち，無理に基準に合わせようとして受講生の実状に見合わない成績評価をすると，甘い評価になってしまう恐れもある。多少苦手でも努力した学生の評価なども，基準に沿おうとするときに悩むことになる。なお，2年次生の「総合英語」では，秀を含んだ優の割合が高い傾向にあるので，授業の内容も含めて何らかの調整が必要かもしれない。基準に合うように厳密にやろうとすると，実情を反映しにくくなる場合があり，また基準に対する教員の間の認識の違いもまったく無いとは言えず，これからの成績評価のあり方について議論を深めて見解を共有することが必要である。（もちろん，授業内容やテストが，結果として目指す成績評価の割合を反映するものだという前提は大切だと考えている。）

2. 2. 初修外国語

ほぼ，基準に沿った成績評価が行われていると思われるが，英語より秀を含めた優の割合が少し高くなる傾向がある。これは推察であるが，英語と異なり初修外国語は「選択（必修）」なので，動機付けがやや高いからかもしれない。なお，受講人数が極端に少ないクラスにおいては，算出されている割合はあまり意味を持たないであろう。なお，使用する教科書の難易度も微妙に成績評価に影響を与えることもありそうである。英語と同じように，成績評価のあり方ならびに授業における到達目標の設定について議論を深めて見解を共有することが必要であると考えている。ただし，現状ではほぼねらい通りの成績評価は達成されていると思われる。

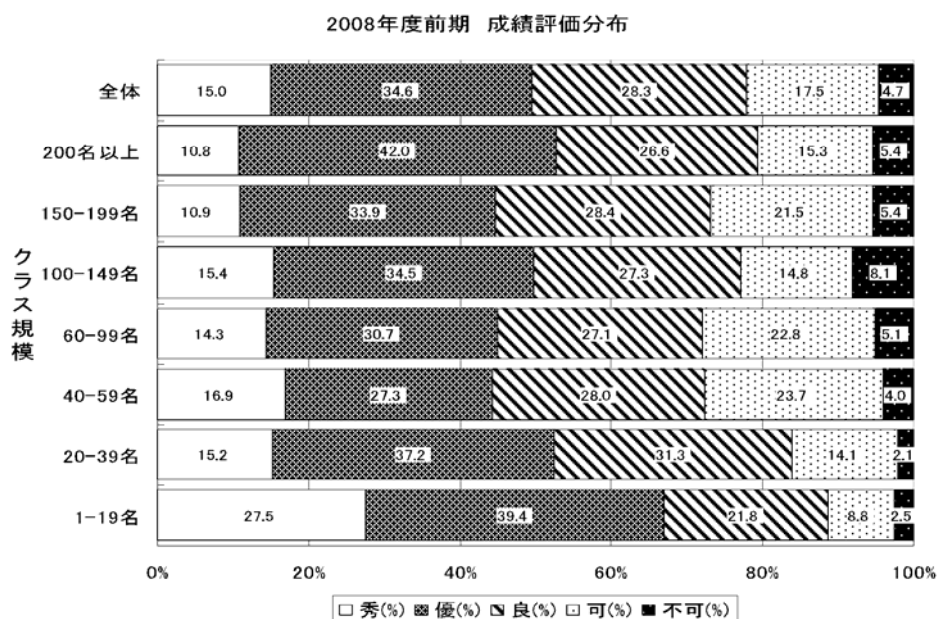
2. 3. 日本語・日本事情

学部留学生の日本語能力はかなり高く，秀と優の割合も高くなる傾向があるが，これは実際の学生の日本語能力を反映した成績分布と考えられ，とくに問題はないと思われる。

【資料】2008年度（前期）共通教育科目 成績評価分布

資料作成・高等教育システム開発部

1. 成績評価分布（全体、クラス規模別）



2. 前年度との比較

全体	授業題目数	履修者数	評価者数	秀+優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	単位取得率(%)
(a) 【2008年度(前期)】	647	31740	30063	49.6	28.3	17.5	4.7	95.3
(b) 【2007年度(前期)】	663	31527	29592	46.9	31.1	17.4	4.6	95.4
(a)-(b)				2.7	-2.8	0.1	0.1	-0.1
【2008年度(前期)】	授業題目数	履修者数	評価者数	秀+優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	単位取得率(%)
200名以上	11	2928	2826	52.8	26.6	15.3	5.4	94.6
150-199名	21	3597	3390	44.8	28.4	21.5	5.4	94.6
100-149名	54	6450	6087	49.9	27.3	14.8	8.1	91.9
(a) 60-99名	60	4591	4334	45.0	27.1	22.8	5.1	94.9
40-59名	88	4205	3982	44.2	28.0	23.7	4.0	96.0
20-39名	298	8521	8098	52.4	31.3	14.1	2.1	97.9
1-19名	115	1448	1346	66.9	21.8	8.8	2.5	97.5
【2007年度(前期)】	授業題目数	履修者数	評価者数	秀+優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	単位取得率(%)
200名以上	11	2927	2816	64.8	18.4	11.5	5.2	94.8
150-199名	21	3552	3322	35.4	31.7	24.3	8.6	91.4
100-149名	46	5448	5107	43.2	32.3	18.0	6.5	93.5
(b) 60-99名	62	4850	4512	47.7	29.0	18.0	5.3	94.7
40-59名	98	4595	4244	37.4	32.8	25.8	3.9	96.1
20-39名	317	8830	8364	48.9	36.1	13.0	1.9	98.1
1-19名	108	1325	1227	67.6	21.8	8.1	2.4	97.6
【2007-08の比較(差)】	授業題目数	履修者数	評価者数	秀+優(%)	良(%)	可(%)	不可(%)	単位取得率(%)
200名以上	0	1	10	-12.0	8.2	3.8	0.2	-0.2
150-199名	0	45	68	9.4	-3.3	-2.8	-3.2	3.2
100-149名	8	1002	980	6.7	-5.0	-3.2	1.6	-1.6
(a-b) 60-99名	-2	-259	-178	-2.7	-1.9	4.8	-0.2	0.2
40-59名	-10	-390	-262	6.8	-4.8	-2.1	0.1	-0.1
20-39名	-19	-309	-266	3.5	-4.8	1.1	0.2	-0.2
1-19名	7	123	119	-0.7	0.0	0.7	0.1	-0.1

(出典：信州大学全学教育機構「成績評価分布を用いた Community-based FD の概要」)

また、「成績評価分布 Web 公開システム」により、個々の科目の成績分布や、分野別・クラス規模別集計平均の成績分布を Web サイト上で学内公開している。

成績評価分布の検索

開講部局

共通教育(全学教育機構) ☒ 共通教育のみ検索できます。

開講年度

2009 年度

開講期間

☒ 前期 ☐ 後期・通年

データ種

☐ 授業別 ☒ 集計のみ

集計区分

- 全て -

集計区分レベル

更新されない場合は [ここ](#) をクリック

1 ☒ まで表示

授業名

(授業名の一部で検索します)

教員氏名

(教員氏名の一部で検索します)

コード

~

成績評価の公平性を確保し、学生等に対する説明責任を果たすこと、及び、今後の教育方法・内容の改善に資するために、成績評価の分布を数値化して公表します。
2008年度から、共通教育科目について公開します。

※注意
(1) 検索時の集計レベルは通常「5」を指定してください
(2) 評価者数欄 = 評価(秀,優,良,可,不可)された者の合計
(3) 成績評価欄 = それぞれの評価修得者の割合
(4) 単位修得率欄 = 評価者数のうち、単位を修得した者の割合
(5) 評点平均点欄 = 評点(秀=4,優=3,良=2,可=1,不可=0)の累計／評価者数

当該期間に共通教育の授業を担当した教員のみ閲覧できます。

検索

印刷

CSVダウンロード

閉じる

平成21年10月26日現在

開講年度	開講期間	部局	授業科目数	履修者数	評価者数	成績評価(%)					単位 取得率(%)	評点 平均点
						秀	優	良	可	不可		
2009	前期	共通教育(全学教育機構)	664	31503	29892	14.4	36.0	28.8	16.1	4.6	95.4	2.40

開講年度	開講期間	部局	授業科目数	履修者数	評価者数	成績評価(%)					単位 取得率(%)	評点 平均点
						秀	優	良	可	不可		
2009	前期	200名以上	9	2346	2234	12.7	35.9	31.8	16.3	3.3	96.7	2.38
2009	前期	150-199名	17	2975	2783	14.2	39.0	25.5	14.4	7.0	93.0	2.39
2009	前期	100-149名	58	6938	6548	14.7	36.8	27.6	13.3	7.6	92.4	2.38
2009	前期	60-99名	67	5176	4944	13.2	33.9	27.5	19.6	5.8	94.2	2.29
2009	前期	40-59名	67	3316	3130	12.9	29.5	27.9	25.4	4.3	95.7	2.21
2009	前期	20-39名	320	9273	8790	13.8	37.3	32.4	14.8	1.8	98.2	2.46
2009	前期	1-19名	126	1579	1463	28.2	40.0	21.1	8.3	2.4	97.6	2.83

開講年度	開講期間	授業分野別	授業科目数	履修者数	評価者数	成績評価(%)					単位 取得率(%)	評点 平均点
						秀	優	良	可	不可		
2009	前期	教養科目	159	12127	11328	14.1	34.4	28.3	15.4	7.7	92.3	2.32
2009	前期	外国語科目	238	6528	6215	10.0	32.2	38.0	18.3	1.5	98.5	2.31
2009	前期	健康科学科目	48	2825	2735	16.8	49.7	26.0	7.5	0.1	99.9	2.76
2009	前期	情報科目	12	468	443	15.6	25.1	26.9	19.9	12.6	87.4	2.11
2009	前期	新入生ゼミナール	79	2327	2292	24.3	55.5	15.8	3.4	1.0	99.0	2.99
2009	前期	基礎科学科目	93	5484	5289	14.4	25.1	27.2	27.5	5.8	94.2	2.15
2009	前期	日本語・日本事情科目	11	147	134	27.6	34.3	34.3	2.2	1.5	98.5	2.84
2009	前期	教職科目	24	1697	1456	14.6	50.9	25.6	7.5	1.4	98.6	2.70

(出典：信州大学「成績評価分布 Web 公開システム」)

「授業改善アンケート」に関するガイドライン ～～考え方と実施参考例～～

＜調査項目について＞

推奨項目：これらの項目は調査内容とすることを推奨します。

- ・ 授業時間以外の学習について指示や説明がありましたか？
- ・ 授業について、改善すべき点があったら書いてください。
- ・ 授業について、教員の工夫他、良いと思ったことを書いてください。

また上記の他に、下記のような項目も考えられます。

- ・ シラバスの内容はわかりやすかったですか？
- ・ 授業内容は、シラバスに合ったものでしたか？（セメスター末実施の場合）
- ・ 授業の目指している目標に、あなた自身は到達したと思いますか？（セメスター末実施の場合）

また、「授業改善アンケート」を行うにあたって、いろいろな工夫が考えられます。以下、いくつかの視点と方法等について例示します。

＜名称について＞

授業改善に密接に結びつけるために、以下のような名称が考えられます。

- ・ 授業改善のための学生アンケート
- ・ 授業改善アンケート

＜実施方法について＞

下記のような方法が考えられます。

- 1) **セメスターの中間に行う**：当該セメスター内での授業改善の参考にする。
＋その際、同時期にピアレビューを行うと、学生と同僚教員による二つの視点を得ることができるので、より効果的な授業改善につなげることができます。
- 2) **セメスター末に行う**：次のセメスターに担当する授業運営に関する改善の参考にする。
- 3) **セメスターの中間と期末に行う**：教員が当該セメスター内に必要な授業改善を行い、その結果を確認できるようにする。
- 4) **授業改善例の共有**：「受けた指摘（改善点・良かった点）」、「改善したこと」、「学生の反応」などを簡単な表にして報告し合うことで、「うまくいった改善例の共有」を進めたり、「FD 活動のテーマ設定」の際の参考にしたりする。

＜実施対象科目について＞

実施対象科目の選定については、下記のような方法が考えられます。

- ・ 全教員の全科目について行う。
- ・ 各教員が特定の課題に関して集中的に授業改善に取り組むために、当該セメスターにおける「授業改善重点科目（例えば、担当科目のうちの一つ）」を決めて、その科目のみで行う。

（出典：信州大学「授業改善アンケート」に関するガイドライン）

○資料－教育１－４

「共通教育科目におけるポートフォリオの実施状況」

「共通教育 「信州大学学位授与の方針」能力要素獲得状況確認票」

共通教育 「信州大学学位授与の方針」能力要素獲得状況確認票

学籍番号	氏 名
------	-----

授業題目名	曜日・時限	曜・時限	授業担当教員名
-------	-------	------	---------

シラバスに掲げる能力要素のうち一つを選び、それについて書いてください。

--

【授業開始時】 記入日時：平成 年 月 日（ ）

1. 今の自分の能力はどの程度か （例：ない，少しある，かなりある，～が弱い）
2. どこまでこの授業で伸ばしたいか （例：～ができるようになりたい）
3. この授業でどうやったら伸ばすことができると思うか

2，3に対する教員のコメント 記入日時：平成 年 月 日（ ）

【授業中間期】 記入日時：平成 年 月 日（ ）

4. 今のところ，どれくらい伸びていると思うか
5. それについて，何が有効か／何が阻害要因か

4，5に対する教員のコメント 記入日時：平成 年 月 日（ ）

【授業終了時】 記入日時：平成 年 月 日（ ）

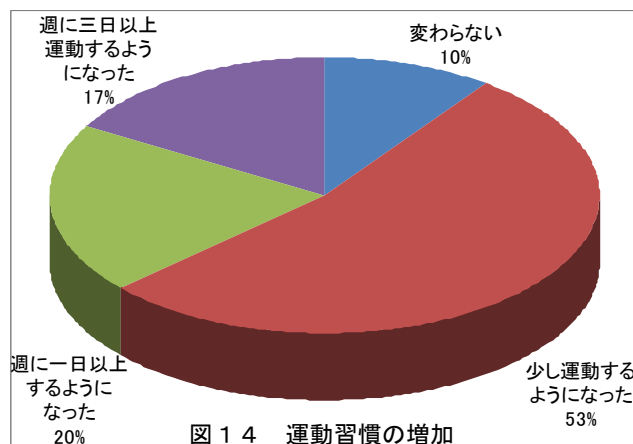
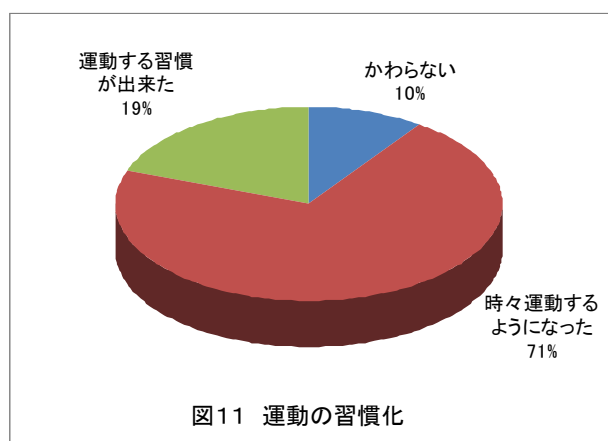
6. どこまで伸びたと思うか
7. それについて，何が有効だったか／何が阻害要因だったか

6，7に対する教員のコメント 記入日時：平成 年 月 日（ ）

（出典：信州大学全学教育機構 「共通教育 「信州大学学位授与の方針」能力要素獲得状況確認票」）

○資料－教育１－５

「平成 21 年度「ジョギングアンドウォーク」実施者の統計データ」



(出典：杉本光公『授業「ジョギングアンドウォーク」の運動習慣獲得効果についての基礎的研究－携帯音楽プレーヤーによる運動習慣獲得プログラム－』)

○資料－教育２－３①

「信州大学 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

信州大学 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

平成20年12月17日

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

豊かな人間性

- みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- 理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

人類知の継承

- 人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- 世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- 科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

社会人としての基礎力

- 日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- 対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- 多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

科学的・学問的思考

- 自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- 専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- 専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

環境マインド

- 信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- 自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- 地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

(出典：信州大学「信州大学 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

○資料－教育２－３②

「カリキュラムマップ」「学位授与の方針」マップ」

本学 Web サイトにカリキュラムマップとして「学位授与の方針」マップ」を掲載している。

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構) ▼
開講年度	2010 年度(西暦)
開講期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年
学位授与の方針の範囲	☒ 全学士課程共通

検 索
ダウンロード
シラバス検索へ

検索条件を指定して「検索」をクリックすると、以下のとおり各科目と、その学位授与の方針への該当状況が表示される。

1～100件 (全681件中)
次へ>

コード	授業名	自己認識・自己啓発マ	社会的行動マインド	人類知の継承と未来創	多様な文化受容マイン	科学リテラシー	言語能力	コミュニケーション能	情報活用能力	問題発見・解決能力	普遍的・数量的理解力	専門知識と応用力	専門外の知識	地域環境に関する理解	環境基礎力	環境実践力
00003	中国近代小説ゼミ	○			○											
00018	映像メディア製作ゼミ		○					○	○	○						
00306	数学ソフト利用の実用数学ゼミ								○	○	○	○	○			
00307	数理と和算の文化ゼミ	○		○						○	○	○				
00310	統計図解ゼミ【教養】								○	○	○					
00600	ロボティクス入門ゼミ【教養】			○				○	○	○						
00608	ウェブ制作ゼミ【教養】			○					○				○			
00610	情報社会論ゼミ【教養】							○	○	○						
01000	NHKビデオで学ぶ地球環境の歴史												○		○	
01001	環境科学入門					○			○	○						
01002	環境変動と森林		○		○							○		○	○	
01009	自然災害と環境		○										○	○		
01015	環境問題のしくみ										○			○	○	
01017	農山村と環境								○			○		○		
01018	地球環境の歴史		○										○	○	○	
01317	環境倫理													○	○	
01318	ビジネスと環境													○	○	○
01326	環境とは何か？－環境倫理学入門－				○											○
01327	信州の環境と社会				○	○								○		
01328	芸術作品と環境			○	○											
01330	人とすまい											○	○			
01332	環境社会学入門		○	○											○	○
01333	環境社会学入門		○	○											○	○

(出典：信州大学「シラバス検索システム」「学位授与の方針」マップ)

○資料－教育 2－6

「教員採用試験合格者数（教育学部を除く）」

年度	合格者数
平成 19 年度	5
平成 20 年度	19
平成 21 年度	29

（出典：信州大学キャリア・サポートセンター）

○資料－教育 2－8

「各学部における専門人。職業人養成のための特徴的な教育課程と、その履修状況等（平成 19 年度以降）」

教育学部 「「臨床の知」の実現」（平成 17 年度文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」採択）
概要：高度な専門性と実践的指導力のある教員を育成するために、教員養成カリキュラムの中核を占める臨床経験科目において学生が蓄積している「体験」と、その「体験」の中で実現した「臨床の知」を、グループ討議やプロセス・レコード等の方法を用いた「省察」によって究明する。学部全教員の省察指導能力の向上と意識改革を図るために、臨床教育推進室がリーダーシップを発揮して各種ワークショップやシンポジウム等の各種 FD プログラムを実施する。
平成 21 年度までの履修状況 卒業生数：平成 19 年度 284 名 平成 20 年度 267 名 平成 21 年度 297 名
主な就職先：教員、公務員等
繊維学部 「ひと・ものづくりプロジェクト」（平成 19 年度文部科学省「ものづくり技術者人材育成支援事業」採択）
概要：2・3 年次に履修する演習科目「ひと・ものづくりプロジェクト」を経て、リタイアした熟練技術者が運営する「ものづくり技術伝授事業所」に 4 年生を派遣し、大学教育に不足している実践的なものづくり技術を習得させる。「ものづくり技術伝授事業所」で「免許皆伝」学生を中心に、企業技術者・大学教職員・アドバイザーを加えた研究開発チームを編成し、企業が求める新技術・製品を研究開発する。学生は講義や実験実習で学んだ内容を、企業ニーズに直結させる形で学び取ることができる。
平成 21 年度までの履修状況 参加学生数：平成 19 年度 11 名 平成 20 年度 13 名 平成 21 年度 18 名
主な就職先：（株）新光電気工業 等（研究職、技術職）
医学部 「生命を育み救う信州医療ワールドの人材育成」（平成 18 年度 文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」採択）
概要：卒前・卒後・生涯を見通した一貫性のあるプログラムにより、長期的視野に立って分野別偏在解消とその前提条件となる地域医療を担う人材の確保に努める。
平成 21 年度までの履修状況 卒業生数：平成 18 年度 94 名、平成 19 年度 98 名、平成 20 年度 90 名、平成 21 年度 85 名（医学部医学科）
主な就職先：地域医療機関等

（出典：信州大学学務課）

○資料－教育2－11

「共通教育グッドプラクティス」の実施状況

「共通教育グッドプラクティス」 選定方法

共通教育グッドプラクティスの選定は、以下のような流れで行われます。

1. テーマ決定

「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。

2. 公募

テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。

3. 選定

選定は全学教育機構執行部により行われます。場合によっては選定者による授業の視察も行います。なお、選定にあたっては、執行部から高等教育システム開発部に諮問した結果を参考としています。

4. ピア・レビュー

選定された取組はピア・レビューを推奨します。共通教育科目はもともと原則公開となっていますが、このピア・レビューは優れた取組の発表という観点から、事前申込せずに参観することができます。

5. 選定授業担当者による取組発表

取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

（出典：信州大学全学教育機構）

「共通教育グッドプラクティス」の公表状況

選定授業、選定理由等は、全学教育機構 Web サイトに掲載し、学内外に公表している。

http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/general/special/good_practice/2010/01/post-1.html

共通教育グッドプラクティス

2010.01.28

平成21年度 選定結果

この度平成21年度の選定が行われ、下記のとおり取組が選定されました。

本年度テーマ

学生の授業外学習を促進する方法について、以下のいずれか、または両方について、優れた取組を行っている授業

- 自己学習を促す授業の方法
- 課題設定の方法

平成21年度 共通教育グッドプラクティス 選定授業

○「古典文学の世界―恋愛事始め―」 前期 火曜3限

授業担当者 教育学部 西 一夫

【選定理由】

- 「所感カード」に回答欄を設けて小課題を課している。
- 参考図書を受講生が実際に手に取って見ることができるよう、現物を回覧させている。
- 他の受講生のレポートを読み、自分の過去のレポートを読み返してから最終レポートを作成させているが、知見の蓄積と分析力の振り返りさせていることにより「確かめる」ことから得られる自信は、自己学習を進める力になるものと思われる。
- 宿題を課し授業外での学習を促している点、またそのフィードバックを返している点が高く評価できる。点

スペシャルコンテンツ

- フレッシュキャンパスセミナー
- 共通教育グッドプラクティス
- 人文社会科学研究紀要
- 刊行目的
- 投稿要領
- 投稿細則
- 教育の質保証グッドプラクティス

スペシャルコンテンツ

- 科目案内
- 採用情報
- 研究者総覧 SOAR
- シラバス
- キャンパス情報システム

【平成 21 年度テーマ】

学生の授業外学習を促進する方法について、以下のいずれか、または両方について、優れた取組を行っている授業

- ・ 自己学習を促す授業の方法
- ・ 課題設定の方法

【平成 21 年度 共通教育グッドプラクティス 選定授業】

○「古典文学の世界―恋愛裏事情―」 前期 火曜 3 限
授業担当者 教育学部 西 一夫

【選定理由】

- ・ 「所感カード」に回答欄を設けて小課題を課している。
- ・ 参考図書を受講生が実際に手に取って見ることができるよう、現物を回覧させている。
- ・ 他の受講生のレポートを読み、自分の過去のレポートを読み返してから最終レポートを作成させているが、知見の蓄積と分析力の振り返りをさせていることになり、「確かめる」ことから得られる自信は、自己学習を進める力になるものと思われる。
- ・ 宿題を課し授業外での学習を促している点、またそのフィードバックを返している点が高く評価できる。点数だけでなく、コメントを付記することで、学生一人一人への対処がなされ、学生にとっても真剣さが増すと思われる。
- ・ 最終レポートに関しても、単にトピック（例えば「〇〇について論ぜよ」といったあまりにも自由度の高い課題）を与えるのではなく、授業内容を反映させなければ評価されないような制限を設けていることで、授業内容の振り返りや、アイデアの統合が促されていると考えられる。

以上のように、自己学習を促す授業の方法において工夫が見られる点が、本年度テーマ「授業外学習の促進、授業外課題の出し方」の方策として、高く評価できる。

○「ジョギングアンドウォーク」 前期 月曜 2 限
授業担当者 全学教育機構 杉本 光公

【選定理由】

- ・ iPod を用いて運動を楽しいものにさせることによって、自主的に目標を設定し、自主的にそれに向かって努力する、という、よいサイクルを作ること成功しているようである。これは課題設定並びにその課題をこなさせる方法において優れているものとみなすことができる。
- ・ 「運動習慣の定着」という目標を掲げ、「記録を残す」という手続きがそのまま学生の運動意欲を喚起するというアイデアと即効性が高く評価できる。また、論文として証拠が提示されていることも評価に値する。

以上のように、課題設定の方法において工夫が見られる点が、本年度テーマ「授業外学習の促進、授業外課題の出し方」の方策として、高く評価できる。

（出典：信州大学全学教育機構 Web サイト）

○資料－教育 3－5

「高度な専門的知識と能力，実践的技術力，研究能力を修得させる特徴的な教育課程と，その履修状況等（平成 19 年度以降）」

大学院総合工学系研究科 「国際ファイバー工学教育研究拠点」（平成 19 年度グローバル COE プログラム採択）
概要： 生命機能・ファイバー工学専攻において，ファイバー工学分野で国際的なリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的として，専攻の学生および上田キャンパスに在籍する学生を対象に，すべての講義を英語で実施する「国際ファイバー工学コース」を設置し，「国際ファイバー工学コース教育研究センター」を中心に独自のカリキュラムの設計・運営を実施した。 ・海外連携機関から教員を招聘し、英語による講義と研究指導補助を実施 ・「先進ファイバー試作開発センター」を設置し、施設を利用した教育カリキュラムを開発 ・学生の英語力向上のため，英語の自己学習用 e-Learning システム(5 コース)を導入、英語による研究成果発表会・国際会議での発表・博士論文作成・公聴会を実施
平成 21 年度までの履修状況：(学年進行中)
主な就職先：(学年進行中)
大学院経済・社会政策科学研究科 「双方向ワークショップ型地域作り社会人教育」（平成 19 年度文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」採択）
概要： 社会人教育を主眼とした本専攻において，「地域特有の諸課題を自ら発見しその解決に主体的に取り組む人材の育成」を目的として，地域からの大学院生，地域に戻った修了生，大学教員の 3 者による「双方向ワークショップ」型教育を行う。
平成 21 年度までの履修状況： 修了者 平成 19 年度 7 名 平成 20 年度 5 名 平成 21 年度 5 名
主な就職先：自治体，医療・福祉法人等
大学院工学系研究科 「創業マインドの継承による高度人材育成」（平成 17 年度文部科学省委託事業「派遣型高度人材育成協同プラン」採択）
概要： インターンシップ教育プログラムの一層の開発を図り，その成果を全学的に展開することによって，本学の教育目的である高度な技術者育成機能の強化をし，企業の中核的リーダーとなる高度技術者を育成する。精密電子産業を代表とする創業マインドに支えられる世界レベルのものづくり技術を持つ長野県内企業と協力し，長期間のインターンシップにより高度技術を学ばせ，学生自らの『ものづくり』を広い視野の中に位置づける姿勢を涵養する。また，事前・事後教育カリキュラムの構築，キャリア教育の充実等，インターンシップ教育プログラム内容の実質化・充実化を行い，体系化を図る。
平成 21 年度までの履修状況： 参加学生 平成 17 年度 4 名 平成 18 年度 12 名 平成 19 年度 15 名 平成 20 年度 19 名 平成 21 年度 20 名 平成 17 年度～平成 20 年度 参加学生計 50 名中 50 名就職（うち自身の実習した企業への就職：10 名）
主な就職先：新光電気工業(株)，三菱重工（株），オリンパス（株）セイコーエプソン（株）等（研究職，技術職）
大学院農学研究科 「長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成」(平成 18 年度文部科学省委託事業「派遣型高度人材育成協同プラン」採択)
概要： 機能性食品開発を学ぶ技術系学生を，企業活動全体が見渡せる地域の食品企業に派遣して，技術以外の企業活動を経験させ，広い視野と経営感覚を併せ持つ「機能性食品高度技術者」を育成する。また，事前・事後教育カリキュラムの構築，キャリア教育の充実等，インターンシップ教育プログラム内容の実質化・充実化を行い，体系化を図る。
平成 21 年度までの履修状況： 参加学生数 平成 20 年度 7 名 平成 21 年度 7 名 うち就職希望者 12 名中 12 名が就職。
主な就職先：食品会社等（研究職，技術職）

（出典：信州大学学務課）

○資料－教育 3－8

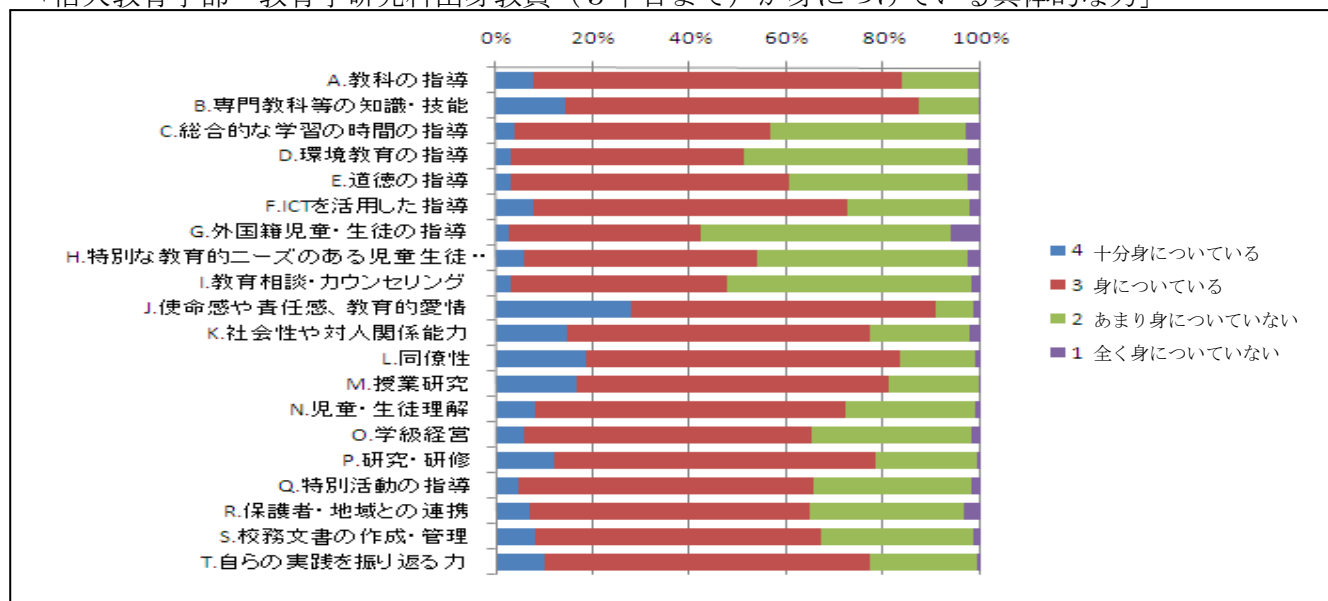
「平成 21 年度における，本学大学院生の主な受賞状況一覧」

所属研究科・学年等	受賞内容	開催学会等
総合工学系研究科生物・食料科学専攻 2 年生	優秀発表賞(口頭部門)	第 102 回日本繁殖生物学会大会
工学系研究科社会開発工学専攻修士 1 年	若手優秀講演賞	日本地下水学会の 2009 年春季講演会
大学院工学系研究科感性工学専攻修士 2 年	大会優秀発表賞	2009 年日本感性工学会大会
医学系研究科、臓器発生制御医学講座発生再生医学分野、博士課程 1 年	Young Investigator Award	第 17 回日本血管生物医学会
大学院農学研究科応用生命科学科専攻 1 年生	Excellent Presentation Award (The 1st place)	The 5th Pacific Rim Food Protein Symposium
博士課程（総合工学系研究科） 修士課程（工学系研究科）	最優秀賞 優秀賞	日本生態学会第 56 回大会

（出典：信州大学学務課）

○資料－教育 3－9

「信大教育学部・教育学研究科出身教員（5年目まで）が身につけている具体的な力」

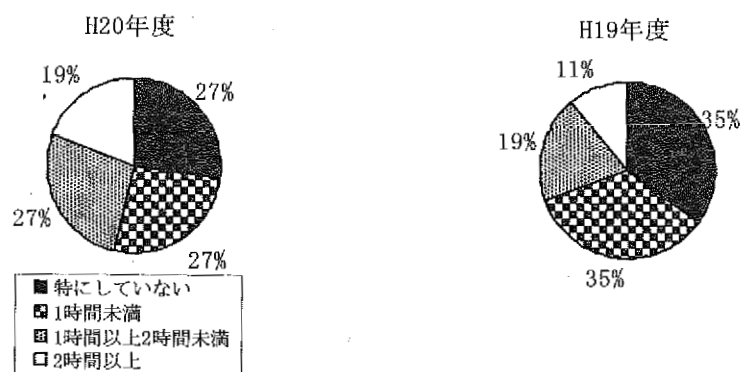


（出典：信州大学教育学部・教育学研究科と教員養成に関するアンケート集計結果(平成 21 年 11 月実施)）

○資料－教育 6－2

「平成 19 及び 20 年度信州大学全学 e-Learning（e-ALPS 活用教育）における受講生アンケート結果比較報告」

質問 8. 回答対象の科目について、平均して週何時間くらい授業時間外学習(予習・復習等)を実施しましたか？



平成 19 年度の本質問結果では、「2 時間以上の授業外学習」を満たしている受講生は、約 1 割である。さらに、35%の受講生においては、「全く自宅学習をしていない」という結果となった。しかし、平成 20 年度では、「2 時間以上の授業外学習」を実施している受講生は、約 2 割と増加し、また、「全く自宅学習をしていない」という受講生は、30%未満に減少した。この質問項目においても、本プロジェクト活動が、受講生らに自宅学習を継続的に促し、その結果、「自ら学び、学び続ける人材」の育成に有効的であるという結果となっている。

（出典：信州大学 教育の質保証プロジェクト 現代的教育ニーズ取組支援プログラム 教育の質保証を目指した e-Learning による単位制度実質化 平成 20 年度最終報告書 pp.44-54 「平成 19 及び 20 年度信州大学全学 e-Learning（e-ALPS 活用教育）における受講生アンケート結果 比較報告」）

○資料－教育 10－3

「松本合同図書館 開館時間の拡大状況」

土・日曜日の開館時間の延長

	平成 19 年度	平成 20 年度
通常(授業期)	10:00 - 16:00	10:00 - 19:00
試験期	10:00 - 16:00	10:00 - 21:00
休業期	10:00 - 16:00	10:00 - 17:00

平日の開館時間の延長

	平成 20 年度	平成 21 年度
通常(授業期)	9:00 - 20:00	8:45 - 22:00
試験期	9:00 - 21:00	8:45 - 22:00
休業期	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00

(出典：信州大学附属図書館)

○資料－教育 11－2

「信州大学 FD ポリシー」

信州大学FD ポリシー

1. 信州大学は、教育組織としての向上を目指して、教育組織を単位とする授業担当者集団でのFD を重視します。
2. 信州大学は、教員個人としての向上を目指して、研修プログラムを組織的に支援します。

【解説】

- ・教育組織単位とは、学部、学科、講座等の教育組織だけではなく、内容的にまとまりのある授業群の担当者集団を指します。
- ・教員のキャリアパスを重視した研修プログラムを実施します。
- ・個人業績評価との連動を前提に、日常的なFD 活動を研修プログラム化します。

平成 20 年 7 月 3 日開催 教育改革企画スタッフ会議決定

(出典：「信州大学 FD ポリシー」)

○資料－教育 19－3

「平成 19 年度から平成 21 年度までの休学・退学者の推移」

平成 19 年度					平成 20 年度					平成 21 年度				
在籍者数	休学		退学		在籍者数	休学		退学		在籍者数	休学		退学	
	人数	率(%)	人数	率(%)		人数	率(%)	人数	率(%)		人数	率(%)	人数	率(%)
9,377	130	1.39	149	1.59	9,341	136	1.46	134	1.43	9,343	139	1.49	117	1.25

(出典：信州大学学生支援課)

「**本学独自の授業料免除制度**」

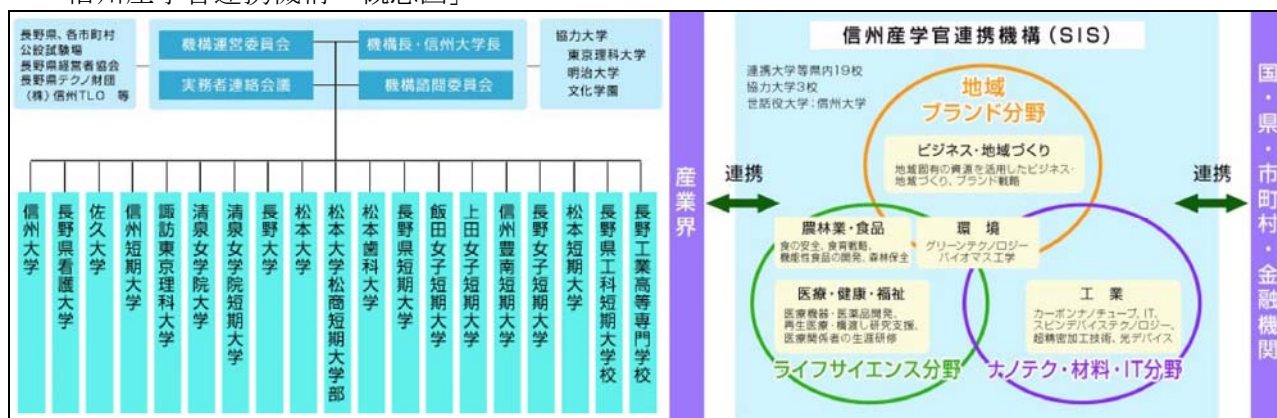
		平成 20 年度	平成 21 年度
成績優秀学生を対象とする授業料免除	免除者数 免除額	115 30,987	115 30,920
研究能力が優れた学生に対する授業料免除	免除者数 免除額	53 7,635	58 8,304
再チャレンジ支援プログラム事業による授業料免除	免除者数 免除額	183 41,013	235 52,946

「信州産学官連携機構人財マップ（SIS Assets Map）」 | アクセス件数

	トータルアクセス	ユニークアクセス
平成 21 年 9 月	4, 224	1, 317
10 月	4, 532	1, 573
11 月	2, 752	1, 215
12 月	2, 906	1, 353
平成 22 年 1 月	5, 107	1, 635
2 月	5, 682	2, 124
3 月	7, 789	2, 827
計	32, 992	12, 044

※ユニークアクセス：実訪問者数（同じ人が複数回訪問した場合でも1とカウントされます。）

「信州産学官連携機構 概念図」



「リポジトリ登録数の推移」

年 度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
登録件数（件）	787	2,333	8,140

- 16 -

○資料－その他 1－3②

「リポジトリ閲覧件数の推移」

度 → 月 ↓	H19 年度	H20 年度	H21 年度 (前年度比 %)
4 月	8 月 1 日か ら本稼働	10,983	34,902 (318)
5 月		14,841	31,773 (214)
6 月		15,113	23,771 (157)
7 月		14,568	21,503 (148)
8 月	1,518	13,955	19,755 (142)
9 月	1,287	9,817	26,707 (272)
10 月	1,920	13,872	31,442 (227)
11 月	6,644	16,680	35,086 (210)
12 月	5,200	15,382	27,925 (182)
1 月	7,080	18,041	34,473 (191)
2 月	6,728	24,182	44,949 (186)
3 月	5,303	50,999	74,296 (146)
合計	35,680	(8-3 月 162,928) 218,433	(8-3 月 294,633) 406,582 (186)

(出典：信州大学附属図書館)

○資料－その他 1－3③

「松本合同図書館 入館者の推移」

(単位：人)

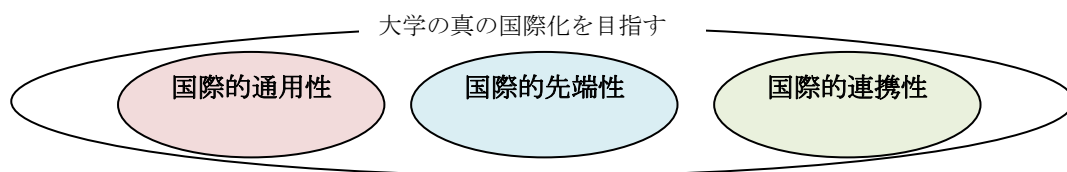
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	前年度比 (%)
4 月	21,129	23,615	24,217	103
5 月	28,346	24,248	24,439	101
6 月	27,231	27,360	31,293	114
7 月	37,551	37,665	44,547	118
8 月	8,770	7,994	8,619	107
9 月	10,364	9,738	12,219	125
10 月	22,355	23,642	24,655	104
11 月	21,415	21,546	26,582	123
12 月	17,581	19,666	24,853	126
1 月	28,213	32,784	35,687	109
2 月	10,269	14,161	18,635	132
3 月	4,522	6,232	6,161	99
計	237,746	248,651	281,907	113
※学外者 (内数)	1,557	1,831	2,042	112

(出典：信州大学附属図書館)

国際化推進プラン

2009.12.16 ②
信 州 大 学

信州大学は、国際化社会が進展する中で、国際的に競争力のある教育・研究拠点を構築・強化するため、単なるキャンパスの国際化に留まらず“大学の真の国際化”を目指す。このため、国際的通用性のある質の高い教育課程と教育内容を通じて、国際社会で活躍できる有為な人材を育成するとともに、国際的に評価される世界トップレベルの研究を中核として特色ある世界水準の研究を推進する。また、留学生の受入拡大と日本社会への就業機会の拡大などの外部要因を踏まえ、大学院により軸をおいた質の高い留学生受入および学生・研究者の留学・派遣などを本学の独自性を発揮しつつ戦略的に推進していく。



1. 国際的通用性を高める

世界に通用する質の高い教育体制を構築し、国際社会で活躍できる有為な人材を育成する。

①世界の多様な文化・思想を受容しうる基盤の形成

・文化・歴史・言語などの共通教育を通じ、多文化理解を涵養する。

②国際社会で活躍できる高度専門人材の育成

・大学院を軸に、社会人としての基礎的能力に加えて、語学力・情報収集能力、分析能力、異文化を理解する能力等に優れた人材を育成する。
・国際化社会に対応できる国際感覚が涵養できる環境をつくる。(異文化サロン、交流イベント・旅行など触れ合う機会の増大)

③国際的通用性に配慮した教育課程と教育内容等の充実

・学位の国際的通用性との観点から教育課程を検討する。
(JABEE, GPA 等の整備など)
・英語等外国語による教育(講義、セミナー等)を目的に応じて実施する。
・実践的な英語教育により国際的なコミュニケーション能力の向上を図る。
・諸資料(シラバス、履修手引きなど)の英訳化・多言語化、ホームページによる情報発信など国際広報活動を充実する。

2. 国際的先端性を高める

国際的に評価される世界トップレベルの研究を中核として、国際化時代をリードしていく特色ある世界最高水準の教育研究拠点を形成する。

①世界最高水準の研究基盤を基に、複数の世界的先端研究拠点の構築

・例えば、グローバル COE、地域イノベーション創出総合支援事業などの採択を受け、国際ファイバー工学教育研究拠点などの世界へのハブ機能となる拠点を構築する。
・国際的に評価の高い論文誌、学会・シンポジウムなどでの存在感を高める。

②国内外の大学、教育研究機関などとの連携により、研究ネットワークの形成

・特色ある研究領域で研究ネットワークを形成する。
・国際連携研究を推進し、世界的リーダーシップを発揮する。
・地域に根ざした研究を基盤に国内外の教育研究拠点への展開を図る。

③次世代の中核を担う研究者の育成

・世界トップレベルの研究者を受入れ、国際的研究ネットワークを形成しつつ、相互交流を図る。
・国際性や専門性を備えた人材を多様な方法により採用・育成する。

3. 国際的連携性を高める

意欲的で優秀な質の高い留学生、先進的な研究者との相互交流を活性化させ、国際的な人材育成・人脈形成、異文化理解教育の拠点となる。

①外国人留学生、研究者の受入及び本学学生の留学、教職員の海外派遣の促進

・国際化時代、留学生 30 万人計画などを視野に入れた、各部署の個別事情に応じた外国人留学生・研究者の受入計画を促進する。
・本学学生の海外留学や教職員の海外派遣、海外からの留学生や研究者等の受入のための体制・環境を整備する。
・教職員の国際的対応能力および組織力の向上を図る。

②国内外の大学との連携強化

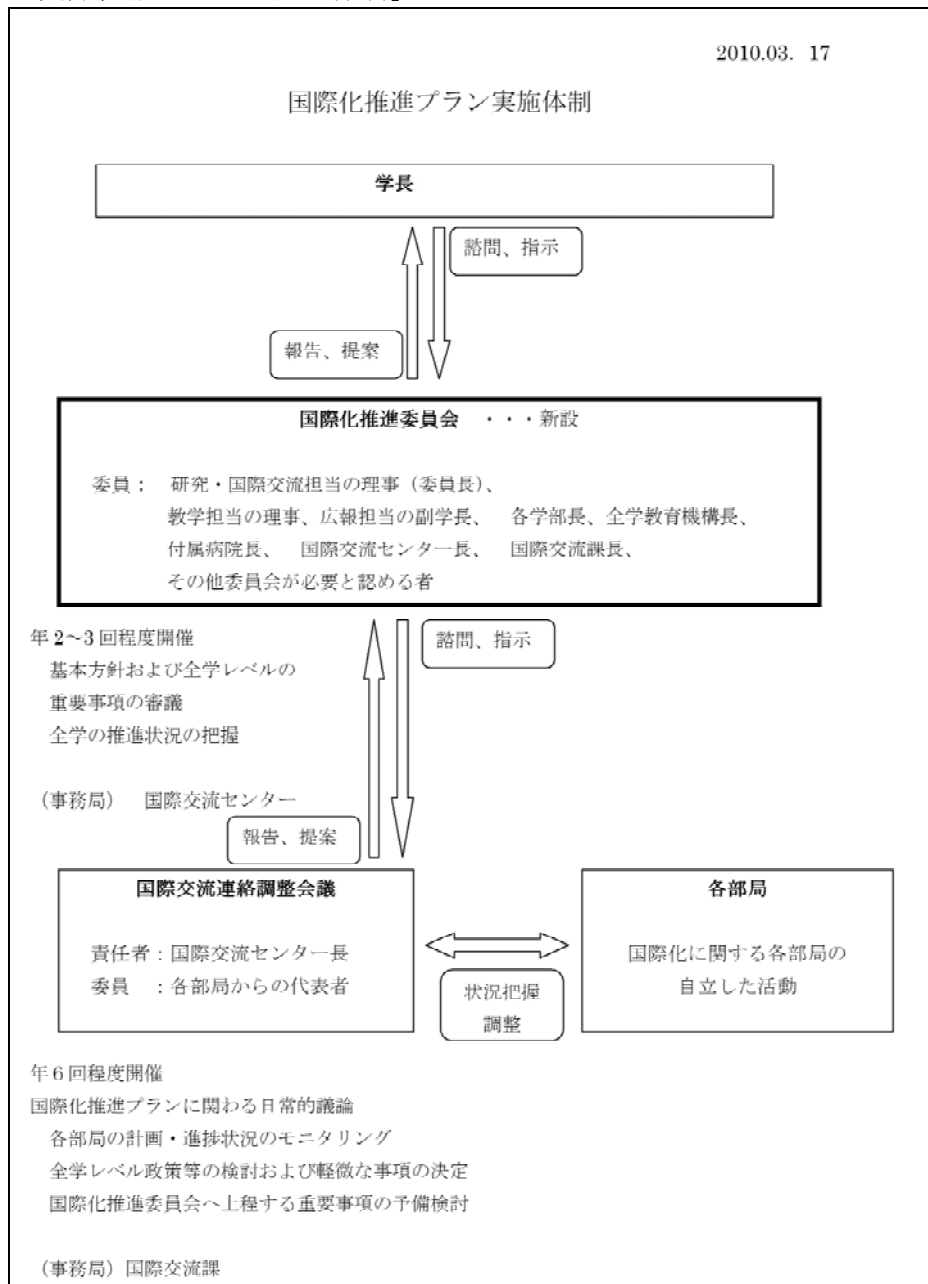
・戦略的な協定校開拓と友好関係の強化、大学間ネットワークなどへの参加などを通じて重層的な交流ネットワークを構築していく。
・協定校とのダブルディグリー制度(複数の大学から夫々学位を授与されるプログラム)の拡充、国際交流イベントの実施、学生・教職員の相互交流の推進などの活動を実質化する。

③地域社会が多様な文化をもつ外国人と共生できるよう、地域社会の国際化への積極的支援

・国際理解教育、異文化理解教育、留学生と地域住民との交流などを通じ、地域住民の異文化理解を促進する活動に積極的に協力する。
・国際的広報活動(ホームページも含む)を強化する。
・留学生ネットワークの構築を進める。

(出典：信州大学「国際化推進プラン」)

○資料－その他 6－1 ②
「国際化推進プラン実施体制」



（出典：信州大学国際交流課）

○資料－その他 7－1
「短期留学生（交換留学生）の受入・派遣数及び大学間協定校数の推移」（各年度5月1日現在）

	受入人数	派遣人数	大学間協定校数
平成19年度	29	6	38
平成20年度	50	9	45
平成21年度	44	11	48

※人数は延べ人数

（出典：信州大学国際交流課）

○資料－その他 8－1
「教員の海外派遣及び外国人研究員の受入状況」

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
派遣	612	656	668
受入	156	166	151

（出典：信州大学国際交流課）